



月刊労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.11.16 No. 3310

安全をもてあそぶな!!

「国際鉄道安全会議の内幕」

十月三〇日から三日間、JR東日本とJR東労組の共催によって、「国際鉄道安全会議」なるものが開催された。

言うまでもなく、この会議は、ばく大な金を浪費した安全のもてあそびに他ならない。

JR発足以降、数字のごまかしによって、「事故は減っている」とデタラメなアピールを繰り返しても、続発する重大事故によって、現実には覆い隠しようもなくなっている。「安全会議」は、労資一体となつて、安全無視の現実をぬり隠そうとする大がかりな隠

「開催までのドタバタ劇」

JR東労組は、「安全会議」に向けて、「世界の鉄道労組を結集させる」とのかけ声の下に、ITF(国際運輸労連)に協力を要請したものの、「要請があつたことそのものを議事録から抹消する」と一蹴されてしまった。その後も、起死回生をはかつて、イタリアで開催されたITF総会に四十名を超す代表団を送り込んでみたものの、会場にも入らず、分割・民営化、十万人首切りに全面的に協力したこ

とでもそれすらも、マスコミなどからほとんど無視され、惨たんたる結果に終わってしまった。

また、JR東海・西日本が、公然と革マル排除に舵を切つた状況のなかで、追いつめられたJR東日本当局内の革マル結託グループとJR総連革マルが「安全」をダシに、自らの生き残りを画策したことこそが「安全会議」の真の目的だったのだ。だからこそ、「国際会議」などと称しても、東日本以外のJRグループさえ、全くそっぽを向いたままだったのである。

しまったのである。二進も三進もいなくなつたJR東労組は、十月十五日、八つ当りの、国労や鉄産労に対し「妨害するな」なる的外れの申入書を送り付けたが、「そのような会議は承知しておりませんのでお答えしようもない」と軽くいなされてしまい、開催日直前には、悲鳴のように「破壊策動が予想される」「警戒体制を強化しろ」「宿泊体制をとって警戒しろ」「マスコミも妨害を煽っている」等々、ヒステリックに叫びたてるといふ、ピエロのような姿をさらけだしてしまつたのである。

「現実をぬり隠す

「安全会議」など、

百害あつて一理なし

しかも、会議の前には、日暮里駅で、乗客がホームから転落し、ホームに駅員がはず、監視カメラからも死角になっており、しかも監視カメラはあつてもそれを監視する要員がいらない、という現実のなかで、両手両足を切断されるという悲惨な事故が起きているのである。また、会議の当日には、踏み切り事故で二名が死亡するという事故まで発生しているのである。

このような現実を自ら推進し、自ら安全を根底的に解体しておきながら、うわべだけを綺麗なことばで飾りたてたのが「国際安全会議」の実態である。この小旅行が行われたそうである。本当に真剣に安全をほ考えるならば、物見遊山の小旅行などでなく、ホームに人がいず、死亡事故が発生せざるを得ないような職場の実態こそ視察すべきではないのか。われわれは、JR東日本と東労組による安全の解体を断じて許すことはできない。

11.23 渋谷宮下公園 12時より

九一三タイ改合理化阻止
業務移管粉砕!

暗黒の天皇制復活を許すな!
自衛隊海外派兵阻止

労働千葉